

## 「食べる」「食べられる」の関係について理解を深める活動

### (1) 観察、実験が行いにくい本単元

本単元においては、生物と環境のかかわりについての理解を図り、環境を保全する態度を育て、生物と環境のかかわりについての見方や考え方をもちとすることができるようにすることをねらいとしている。ここでの指導に当たっては、生物と環境のかかわりについて、観察、実験が行いにくいので、映像や模型などを活用することが考えられる。そこでここでは、生き物同士の「食べる」「食べられる」のかかわりについて、ゲームを取り入れながら理解を深めていく活動を提案する。

### (2) ネイチャーゲーム 「コウモリとガ」

「ネイチャーゲーム」とは、1979年、アメリカのナチュラリスト、ジョセフ・コーネル氏により発表された自然体験ゲームである。「自然への気づき」(互換で自然を感じ、心と体で直接自然を体験することによって、自然と自分が一体であることに気づく)を目的に、自然の中はもちろんのこと、町中の公園や学校の校庭などでもできるゲームである。その中の1つ、「コウモリとガ」のゲームを通して、生き物同士の「食べる」「食べられる」のかかわりについて理解を深めていく活動を提案する。

ルール

- ・登場する動物はその名の通り「コウモリ」と「ガ」である。
- ・コウモリはガを捕食して生きていることを子供たちに伝えた後全員で輪を作り、コウモリ役を1人、ガ役を2～4人程度選出する。
- ・コウモリは目隠しをしてガを捕まえる。コウモリが「バット！」と叫ぶとガは「モス！」と応えなければいけない。
- ・コウモリにタッチされたガは、周りの壁になる。

以下は、「コウモリとガ」のゲーム後に、子供たちに感じたことについて話し合った場面である。

教師：コウモリ役さん、いかがでしたか？

コウモリ：目かくしをされていたので見ることはできませんでしたが「バット！」と叫んで、耳をたよりにガを捕まえることに必死でした。

教師：自然にいるコウモリも、ガを捕まえないとおなかが空いてしまいますね。ガの役さん、いかがでしたか？

ガ：コウモリは目かくしをしても「バット！」と叫ばれると「モス！」と応えなければいけないから、コウモリが近づいてくることが怖かったです。

教師：ガも食べられないようにと必死ですね。

子供A：ということは…コウモリもガも、生きるために必死だということだ…

子供B：コウモリは食べないと死んでしまうし、ガも食べられると死んでしまうし…生きるって大変なんだ…

教師はその後、ガは花の蜜などを餌としていることについて子供たちに話した。

右は授業後に子供が書いた本時の感想である。ゲーム活動を通して理解を深められたことが、この感想からも分かる。



バット！ モス！

ぼくたち人間は、何かに食べられたりする  
ことはないのだからあまり考えたことはない  
けれど、ペロやカエルなどは、エサをさが  
しながら自分の身を守るのですごく大変だ  
なというところが分かりました。  
また、地球の環境は植物や小さな虫から  
できているので、何が一つでもかけてしま  
うとぼくたち人間が絶滅してしまうかも  
しれません。だから植物や小さな虫なでも  
すごく大事な物の一つだなということ分か  
りました。